



8月 ひだまり通信



NPOこどもサポート・みんなのおうち

大津町子育て支援センター
病児・病後児保育「ひだまり」
2026年 8月



今月のお便りは、これから流行しやすい【夏の皮膚トラブル】についてです。
気になる症状やいつもと様子が違う時は、早めに小児科や皮膚科を受診しましょう。

夏の皮膚肌トラブル

(虫刺され) 小さな子どもが蚊に刺されると大きく腫れてしまったり、水ぶくれができることがあります。かき壊さないよう、早めに手当てをしましょう。

手当のやり方

①刺されたところを水で洗い流します。



②かゆみ止めを塗ったり、ぬらしたタオルやハンカチで包んだ保冷剤などを当て、かゆみをやわらげます。

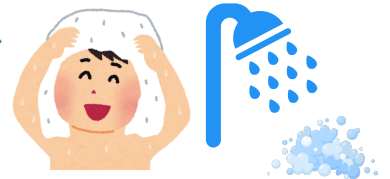


(あせも) 汗を分泌するところがつまって炎症が走った状態です。汗をかきやすい部位に赤い小さなポツポツがたくさんできて、かゆくなります。

赤の部分があせもができやすい場所です



シャワーなどで汗をよく洗い流したり、ぬらしたタオルで拭きとってケアをしましょう。



(とびひ) 皮膚をかきむしって傷ができたところに細菌が感染し、ジクジクした湿しん(とびひ)ができます。とびひは、感染力も痒みも強いため、掻いた手で体の他の部分を触ると、そこにも湿しんが広がります。

水ぶくれやただれをかきむしると、あっという間に全身に飛び火(とびひ)します。



7月のひだまり利用

- ・急性上気道炎
- ・ヘルパンギーナ
- ・手足口病
- ・感染性胃腸炎

などでした。

ポイント

シャワーで、皮膚の清潔を保ちます。かき壊して広がったり、周りへの感染を防ぐために、ガーゼで保護した方がいい場合があります。皮膚科や小児科を受診しましょう。

肌トラブルを防ぐために

- 皮膚を傷つけないように爪を短く切る。
- かゆみをやわらげるように冷やす、かゆみ止めを塗る。
- 治りが遅い、広がった湿疹が変化したときは、小児科や皮膚科を早めに受診しましょう。



菊池郡大津町大津1156-3
(大津町子育て健診センター内2F)

TEL : 096-294-9511

